

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 経済部会（第1回）
開催日時	平成27年7月1日（水） 午後7時から午後9時
開催場所	音更町役場2階 第3委員会室
委員出席者	畠部会長、土田部会長代理、勝野委員、木村委員、坂井委員、新谷委員、鈴木委員、辰尾委員、谷内委員、林委員
事務局出席者	津本経済部長、福地農政課長、重堂産業連携課長、山本土地改良課長、加藤農業委員会事務局長、吉田商工労政係長、大井観光係長、傳法企画財政部長、西岡企画調整係長、清水企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画の見直しについて 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	基本計画修正案、施策評価調書
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>■農業[経営]</p> <p>委員：平成32年度の農業総生産額を示すべきでは。また、エコファーマー数の割合だが、きちんとこれを目指す、減農薬の生産については何パーセントを目指すというのは非常に大切だと思う。生産性より、安心安全とか有機栽培とか減農薬栽培というのに関心がある世の中となっているので、それを目標数値とし、その中で細部に渡って目標値をつくる必要はないか。</p> <p>事務局：音更の農業そのものが、小麦やビートといった原材料的な作物のウェイトが非常に高く、主に葉物を生産する野菜農家と、小麦やビートを生産する畑作農家を、有機栽培や減農薬というくくりで一緒に考えることは難しいと考える。話としては十分わかるが、目標値としては設けにくいと思う。</p> <p>委員：表示の仕方によっては、外に向けたPRもあるかと思うが、作物によってはそぐわないものもかなりあり、また、意図することをやろうとすると、品目ごとに細かい数字をたくさん出さなければならいようになってしまう。</p> <p>委員：エコファーマー認定農業者数の中間数値39パーセントは進んでいない結果では。</p> <p>事務局：国の事業との絡みもあり、この割合は一度かなり上がったが、その事業がなくなって少なくなったというのがある。それでも、肥料、農薬の価格は高止まりをしており、認定を受けなくても農家の方はあまりお金をかけずに生産したいというのがあるので、減農薬がかなり定着していると考えている。この認定は5年ごとの更新だが、その手続きに手間がかかるということもあり、農家の方にとっては、更新せずとも減農薬を引き続き行うという方もたくさんいる。ただ、やってない人もたくさんいるので、そういう人にアピールする必要はあると考える。</p> <p>委員：安心安全という意味で、認定者数の割合というのは大切。認定を受けなければ出荷も厳しくなるというようなブランド化を進めていく必要があるのではないか。</p> <p>事務局：エコファーマーの認定を受け、特別栽培となっても、価格に反映しないとこ</p>

ろが非常に難しいと感じるところ。

委員：生産者側としては、どんな農薬、肥料を使ったというようなカルテを作らなければならず、取引先から求められたら開示できる形にはなっている。現場ではそうだが、総合計画にそのような形を求めるとすると、エコファーマーがぎりぎりの線で、現場でやっていることを、総合計画の指標とすることは難しいという気がする。

事務局：全てのを事細かに数値化できるわけではなく、一つの物差しを提示するに留めざるを得ないものもあることを理解いただきたい。

委員：エコファーマーを出すのであれば、補足説明をする必要があると思う。総合計画でPRできるものということで提案していくのであれば、コメントを入れたりするなどの工夫が必要。表現を工夫してみてもどうか。農業総生産額の目標値を示したらどうかというのがあったが、TPPの関係で収入保障保険の話も出ているが、そんな中で生産額をどうとらえるかは説明しにくいと思うので、どう補足説明するかによると思う。金額的な目標が掲げられるのが本来であろうが、なぜそうならないか、その辺りの事情を補足説明として付け加えてはどうか。

委員：総合計画策定時よりは意識は高まっていると思う。目標値設定は難しいと思うが、適切な表現の仕方を考えていただきたいと思う。

部会長：表現の仕方、説明の仕方に工夫をお願いしたい。

事務局：生産額については、目指す数値としてはあまりにも曖昧すぎるというのが現状であり、このような表現にしているということで理解いただきたい。

委員：現状と課題に、「環境への負荷に配慮した生産環境づくりが必要」という課題が提言され、めざす方向で「安全・安心な農畜産物が安定的に供給できるようにします」と、安全安心という言葉になり、施策や目標指標では、クリーン農業とかエコファーマーということで、ここには安全安心の要素も入っていると説明もあるが、その辺が結びつかない。めざす方向に安全安心といいながら、施策は、環境に配慮して、という記載になっている。全体的な統一感を保った方がいいのではないかと。目指す方向の安全安心のために、何をしているのかというところが抜け、クリーン農業で片付けられているようにも見える。

事務局：ご意見を踏まえ、現状と課題からめざす方向、施策、指標へとつながる形で言葉を整理したい。

■農業[生産基盤や生産環境]

委員：優良農地の定義はあるのか。また、施策の主な内容に、防風林機能の維持向上とあるが、防風林の機能の促進など文言を変えて、音更は防風林に包まれて風害がないというような表現はいかがか。防風林を確保しようとするには農家の方は効率とか生産性とかいうようなことを考えて防風林がどんどんなくなっているが、それでも優良農地というのか。

事務局：音更には一部国有林の防風林があるが、基本的に町有保安林、国有林保安林は減少していない。耕地防風林は、農家個々が、道路際に設置している防風林で、行政としても耕地防風林個々の位置付けというのはない。道路拡幅、農家日当たりが悪い、落ち葉が作物に影響するなど、どうしても減らそうという方と、やはり必要だという方はしっかり管理し更新しているようだ。耕地防風林更新の助成制度はあるが、強制的に耕地防風林をなくさないでくださいというような状況になく、数字的な押さえ方は難しい。

委員：数字的には何ヘクタールだったらというような目安はあるものか。

委員：昔からいわれているのはあるが、それをもって音更町の指標の目安というのもどうかと思う。

事務局：数値的なもので優良農地といえるものはない。

事務局：本州などでは再生の難しい耕作放棄地など色々な分類が出てくるのだろうが、音更町においては、耕作放棄地をつくらず、維持して生産を続けているという位置付けで、営農に供されている農地はすべて優良農地というようなおさえになるかと思う。

委員：明渠排水路に理想的なゴールはあるのか。

事務局：維持管理と更新で、その内数として含まれている仕事是相当数あり、事業や、管理延長を物差しとするしかないと思う。全ての事業を積み上げたら、もっと大きい数字になる。終わりが無い性質のものと捉え、10年間でどれだけ整備水準が進んだか、という物差しで進捗状況をおさえていくしかないと思う。基盤整備とは明渠排水だけなのかというご指摘もあるかもしれないが、それだけではないということでは理解いただきたい。

事務局：ここに書いてある数字は、二度と整備がいらぬ、更新しなくていいような目標値を設定している。昭和20年代、30年代に整備したものは、その当時の基準でやっているのだから、断面が小さかったり、ブロックがきちんと入ってなかったりというようなところがあり、まだまだ時間がかかる状態。

■林業

委員：植林に対する町の助成制度のことについてもう少し踏み込んでみてはどうか。総合計画に入れるかどうかは別な話として、32年度に30ヘクタール植林するという目標値があるが、更新に当たっては、多いときは多い、少ないときは少ない、というのではなく、平準化を図れるよう検討していただけないか。

事務局：助成制度はあるが利用率は低いのが実態。町の補助事業である以上2分の1の補助で全額にならない、しかも苗木代の2分の1ということで、申請手続きの手間も考えると…という現実もあるが、事業を活用してもらおう手法は検討していかなければならないと考えている。
後段については予算との絡みが強く、財政当局と協議してということになるので、総計とは違うかもしれないが、考えていかなければならない。

委員：カラマツ以外は植えないのか。

委員：材料として考えるのであれば、成長の早いカラマツが適しているが、葉が農作物の間に入ってしまふのがデメリット。常緑のものは他にもあるが、防風林として考えると、結果的にはカラマツが一番適しているのではないかと思う。

■産業連携

委員：音更産のものが音更で消費されている割合はどれくらいか。

事務局：音更がメインで作っている小麦やビートなどは原材料であり、加工されて流通する。音更産のものだけというくくりが難しく、地産地消の割合として評価することは難しい。

委員：食育の面から、給食の中で音更産のものが使われている割合はわかるか。

事務局：音更産のものを給食に提供するの、月1回ほど、品目を絞って提供している。また、事前に給食だよりなどで農業をPRしている。平成25年度に中学校で8回程度だったのを、26年度実績で14回、予算も増やして実施しているほか、「おおそでくんキッチン」という食育事業を展開している。25年度に新たに取組を始めた事業だが、保育園の年中から小学校1年生を対象に、子どもたちだけで調理を完結する事業で、平成25年度5回だったのを、今年度、最低でも8回に増やしたいということで、ゆくゆくは、小学校1年生、保育園の年長全員

を対象に実施したいと考えている。

また、ふれあい交流館に町のほ場があり、保育所、学校の全員とはいかないが、毎年、植えから管理、収穫まで、農業に触れる授業の取組回数を増やして実施しているなど、給食だけでなく、細かい事業はやっている。

委員：地元で生産し、地元で消費することを考えると、流通の方に踏み込まざるを得ないが、そこは行政が踏み込みにくいところであって、その辺も踏まえて表現を作っていたらと思うのだが。

事務局：農産物の直売所があれば、売り上げベースで目標を立てることもできるかもしれないが、それでも地元で消費されたとみなすことはできないし、直売所の売上高を物差しとするというのは今後考えられるかもしれないが、現状ではそういう施設がなく、例えば、道の駅で音更の農産物も売っているのだから数字を出すこともできるが、普通のお土産もあり、それが地産地消の数字なのかといえなかなかなか難しい。今後の検討課題と思うが、今回の見直しの中でこれらを具体的に数値化するのには難しいと思う。

■商業

委員：課題が大きくて、目指す方向性が弱い。また、雇用の問題にも触れていないように思う。

施策の主な内容の「商店街」は、どのような定義で使っているのか。商店街に明確な定義はないが、中小企業庁などによれば、30以上の商店が集まって商店街を構成するというのがあり、そのような構成をなしていないところがあるので、この表現は検討したほうがいいのでは。

次に、施策の(1)、(2)が目標指数とリンクしていなく、検討の余地がある。また、小規模事業支援法が一部改正になり、小規模事業者の持続化とか商工会が経産省に提出した経営発達支援計画に地域ブランドとしての地域コミュニティと商工会のあり方はどうなのか、産業連携はどうなのかということ盛り込んであり、それらを含んだ形で検討してもらいたい。

事務局：文言等を記述することは可能だと思うが、総合計画は、個々の商業者を支援していくための計画ではなく、大きなくくりで考えていく必要があると思う。めざす方向性については、記述の仕方なので、いかようにも調整できると思うが、非常に悩んでいたのが、指標で、個々の経営母体を数値化するのにはなかなか難しく、商工会が活性化されれば商業が振興していることに間違いはないというおさえ方で設定した。

委員：例えば、商工会員数ではなく、組織率を目標値としてはどうか。

事務局：再度詰めさせていただきたい。

委員：商工振興資金は、保証料の補てんがあるというところで非常に素晴らしいが、町内の5つの銀行、4つの支店で枠を持って振り分けてやっているが、利用率は8割以上で足りていない状況で、設備投資の資金として使うには実態に合っていない。目標数値4億9千万の根拠を違う形でやったほうがいいのではないかと。枠を各銀行で振り分けること自体もどうなのかと思うので、検討していただきたい。

事務局：商工会員数の組織率と同じように利用率とすることも考えられるので検討したい。商工振興資金は、単に町の融資制度だけが存在しているわけではなく、他の制度とのバランスも踏まえて落としどころを模索しているのが現状で、北海道の融資制度とのバランスも考える必要がある。

委員：商業、観光にも関係あることだが、高速道路が白糠、釧路まで延伸し、物流、人の流れが生まれ、特に観光については、音更のインターまで行くと、十勝川温泉に入るには逆走になるということで、スマートインターチェンジのことを今後の項目の中に入れていただきたい。

事務局：スマートインターチェンジ、あるいは高速道路については、生活基盤部会の

道路の分野で議論になるかと思う。なお、見直しのたたき台では物流の効率化や観光客の増加などにも触れており、それらを含めた上で議論されることと思う。

※次回専門部会開催日時を7月21日（火）午後7時からとした。